

令和3年度内航船支援セミナーの開催結果

鉄道・運輸機構（JRTT）は、内航海運に携わる皆様の課題解決の一助となるべく最新の情報提供の機会として、2021年11月29日（月）に令和3年度内航船支援セミナーを開催しました。

今回のセミナーでは、JRTTの最近の取り組み、船舶分野におけるバイオ燃料の活用、多数の低軌道衛星を利用した情報通信サービスの構想、走錨リスク判定システムの活用方法、及び、内航カーボンニュートラル推進に関する最新情報について、紹介しました。

コロナ禍ではありますが、今回は、オンラインでの参加と会場参加を併用したハイブリッド形式での開催とさせていただきました。当日は、オンラインと会場、合わせて約250名の皆様にご参加いただき、盛況を博することができました。多くの皆様にご参加いただきましたことを改めて御礼申し上げます。

参加可能定員の関係で、ご参加いただけなかった皆様には、深くお詫び申し上げますとともに、今回の結果を踏まえ、次回のセミナーでは、より多くの皆様にご参加いただけるよう努めます。

開催日時・会場

日時：2021年（令和3年）11月29日（月） 13:30～16:00

会場：JRTT本社（20階 第1・第2会議室）

（同会場での参加及びオンライン配信の併用）

講演内容・配布資料

（1）「労働環境改善船」の設備要件見直し案及び共有建造制度の主な改正点

講師：齋藤 徳篤（JRTT 共有船舶建造支援部 担当部長）



直近の共有建造制度の改正点として、本年11月より導入した上乗せ要件「特定船舶導入計画の認定を受けた船舶」や、来年度改正予定の上乗せ要件「労働環境改善船の設備要件」の見直し案について説明するとともに、内航ラボ等、JRTTの取り組みについて紹介。

[配布資料](#)

(2) ユーグレナ社バイオ燃料の取組について～船舶分野での可能性～

講師：尾立 維博（株式会社ユーグレナ 執行役員 エネルギーカンパニー長）



内航船舶分野においても温室効果ガス排出量の一層の削減が求められている昨今、対応方策の一つとして期待されるバイオ燃料に関し、その必要性や、ユーグレナ社の開発・販売するバイオ燃料「サステオ」の特徴や供給の見込み等について紹介。

[配布資料](#)

(3) ソフトバンクのNTN※構想

講師：押田 祥宏（ソフトバンク株式会社 サービス企画技術本部 グローバル通信事業統括部 担当部長）

※Non-Terrestrial Network：低軌道衛星通信「OneWeb」を含む空からの通信



内航船の船主、オペレータ、荷主及び船員にとって、労働環境改善や船舶におけるDX推進の観点から重要なインフラとなり得る低軌道衛星通信に関し、ソフトバンク社が協業を進める低軌道衛星通信システム「OneWeb」の概要、商用化のスケジュール、船舶向けサービスのコンセプト等について紹介。

[配布資料](#)

(4) 走錨リスク判定システム（錨ing（イカリング））

講師：深石 晃（国土交通省 海事局 安全政策課 課長補佐）（写真左）

宮崎 英樹 (国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 流体性能評価系 上席研究員) (写真右)



台風襲来時の強風等により錨泊中の船舶が流される危険性がある状況で、他船との衝突や浅瀬への座礁等の事故(走錨事故)を防止するため、国土交通省及び海上技術研究所が共同で開発し、本年7月に無料公開した「走錨リスク判定システム(愛称: 錨ing(イカリング))」の概要について紹介。

[配布資料①](#) [配布資料②](#)

(5) 内航カーボンニュートラル推進に向けた検討

講師: 河合 崇 (国土交通省 海事局 海洋・環境政策課 技術企画室長)



国土交通省海事局は、本年4月に「内航カーボンニュートラル推進に向けた検討会」を設置し、内航海運の低・脱炭素化に向けて取り組むべき施策の方向性やロードマップ等について検討を行い、8月に中間とりまとめを公表。この中間とりまとめの内容や今後の予定、低・脱炭素化に向けた支援等について紹介。

[配布資料](#)

(6) (資料配布のみ) 衛星通信サービスについて

衛星通信サービスに関し、KDDI株式会社の「低軌道衛星通信サービス『Starlink』との業務提携」、及び、スカパーJSAT株式会社が2022年1月より開始する「海洋ブロードバンドサービス『JSAT Marine』」に係る情報提供。

- [配布資料「SpaceX社の衛星ブロードバンド『Starlink』と業務提携 au通信網に採用」](#) (提供: KDDI株式会社)
- [配布資料「海洋ブロードバンドサービス JSAT Marine」](#) (提供: スカパーJSAT株式会社)